

第6期事業指定プログラム「エラベル」寄付募集状況（その3）

第6期事業指定プログラム「エラベル」が12月から始まりました。「エラベル」は、助成原資がなく「ゼロ」から寄付を募るプログラムで、SNSをはじめとする様々なコミュニケーションを使った広報を行い、活動に共感してくださる方を公募するクラウドファンディングの形式の寄付です。

これまでに、目標の280万円に対して322名（団体）から1,796,210円の寄付がありました。残り1か月弱となりました。引き続き、皆様からのご協力をお願い致します。

各団体の進捗状況、寄付の方法につきましては、以下のHPよりご覧ください。宜しくお願い致します。

●NPO法人ワーカーズ・コレクティブメロディー

「多世代の居場所メロディーココの活動を応援してください」

https://lively-citizens-fund.org/dona_eraberu1902/

●認定NPO法人ワーカーズ・コレクティブわか

「リフト付き福祉車両購入費用の寄付をお願いします」

https://lively-citizens-fund.org/dona_eraberu1901/



ワーカーズ・コレクティブメロディー

地域福祉の向上と支えあいたすけあいのまちづくりを進めてきたNPO法人 ワーカーズ・コレクティブ メロディーが念願の常設の居場所を開設しました。人と人とのつながりが薄れ暮らしの不安も増している今、メロディーココが地域のセーフティーネットとして、地域住民がつながり、安心して生き生きと暮らせる地域づくりに取り組みます。

目標金額100万円

多世代の居場所の応援団を増やし、「メロディーココ」を拠点として、支えあい、たすけあいのまちづくり活動をすすめます。

●寄付金の振込先

ゆうちょ銀行確から 記号00230-1-136752
口座名義 ザイ) カナガワイキイキシミンキキン



ワーカーズ・コレクティブわか

待たなし！ 車いす利用者に対応するリフト付き福祉車両高齢でも障害があっても、移動の自由を実現するため、地域に必要なサービスとして移動支援を開始して20年、利用者の状況・ニーズに適切な対応ができるサービスを行っています。増え続ける移動のニーズ、特に車いす利用者に対応するためには、老朽化した福祉車に代わり、リフト付きの新たな車両の購入が必要です。

目標金額 180万円

多様な人々の移動の自由を実現するための、福祉車両の新規購入費用の一部として活用させていただきます。車いす利用者からの要望に対応したサービス体制を整えます。

●寄付金の振込先

ゆうちょ銀行確から 記号00270-6-102471
口座名義 ザイ) カナガワイキイキシミンキキン



これまでの寄付額 (2020年2月20日現在)

メロディー 891,000円
(達成率 89.1%)

目標達まで 109,000円

わか 905,210円
(達成率 50.3%)

目標達成まで 894,790円

現在までの寄付総額

2020年1月末日現在
127,058,504円

賛助会員

2020年2月末日現在
個人会員数 **74**
法人会員数 **19**

TOPICS

- ♡ 第6期「エラベル」中間報告（続報）
- ♡ 市民ライターの記事 会 お福わけの会

公益財団法人かながわ生き生き市民基金

横浜市新横浜2-2-15パレアナビル 6F 045-620-9044

Mail info@lively-citizens-fund.org

URL: <http://www.lively-fund.sakura.ne.jp>

お福わけの会(横浜市)

～食べられない不安をなくし、子どもたちが成長できる地域をめざす「食料分かち合い」活動～

子どもの貧困に取り組む地域のフードバンク

「もらう・あげるだけの関係は絶対いやだ。対等がいい。」とお福わけの会の野中さんは語る。インタビューに伺ったのは月曜日の午後。既に仕分けの作業は終わっていた。「まんま」の1階に入ると、入口の脇と中に積み重なった段ボール箱が目に入った。ここで「お福わけの会」の仕分け作業が行われている。

お福わけの会は、親子のひろばを運営する「NPO法人 まんま」と瀬谷区で子育て事業を多岐に展開する「認定NPO法人さくらんぼ」が共同で立ち上げた地域のフードバンク活動だ。親と子の広場に集うお母さんからの「生活が苦しい」との声をきっかけに活動をスタートし、瀬谷区を中心に約90世帯・300名程の方々に食料を支援している。利用者の多くはひとり親世帯だ。食品は主に「フードバンクかながわ」と「セカンドハーベスト」から届く他、Amazonや近所のパン屋さんからの提供、家庭菜園で採れた野菜を持ってきてくださる個人の方からの提供もあるという。食品の仕分けは3箇所で行われ、受け取る場所は駅の近隣を中心に、地域子育て支援拠点、保育園や学童など12箇所広がる。



利用者に寄り添う支援

お福わけの会の利用者は、ほぼほぼロコミで広がった。受け取り場所で、どんなことに困っているかを聞き取ったうえで利用につなげる。利用対象者は未成年養育者に限定されているため、利用者の子供が高校を卒業すると表面的には支援が途切れてしまう。これに対しては、利用者を社会福祉協議会や障害児支援を行っているところにつなげることで、利用者に安心していただけるようにしているという。

利用者の方々へのアンケートによると、食品は主食、特にお米が一番ありがたいという。アルファ米はお湯を入れれば食べられるので、障害等のためにお米を研ぐことができない場合にも、助かる。利用者は週1回、顔を合わせて食品を受け取るので、話ができて様子も見える。利用者にとっては、1週間分の食料があることが安心だと言う。飛び込みで来る人向けにも、倉庫に残している。

食料の分かち合いを通じて社会的孤立を防ぐ

「お福わけの会」の活動には、様々なボランティアの方々関わっている。会社を引退して車を出して配送してくれる方、オルタフーズのパンを取りに行ってくれている方もいる。栄養学を学んでいる近隣の高校生がレシピを考えたり、放課後に仕分けを手伝ってくれたりする。このような地域の協力はほとんどがロコミで、インターネットなどに出していないのに広がっている。

仕分け作業等には、当事者すなわち利用者の方々も関わってもらっている。

「みんなでやってみんなで分けっこする」ので、「お裾分け」とは違う。みんなが平等に、できることは一緒にやっという気持ちで「福を分かち合う」から「お福わけの会」になった。

「当事者と対面しているのが大切な時間」と語る野中さん。最終目標は「自分の足で社会に戻っていくこと」。バザー開催の際には10円でも値段をつけて、利用者にも買い物する楽しみをもってもらう。利用者の気持ちに寄り添った支援は、利用者の「卒業」を応援し、「卒業」後も地域であたたかく見守っている。



(市民ライター：浅井ちえろ)

助成団体情報 お福わけの会 (横浜市瀬谷区)

◆事業内容
食料分かち合い活動

◆連絡先：
横浜市瀬谷区瀬谷4-7-19
TEL：045-303-5393

財団からの助成

◆第9期福祉たすけあい基金 (2017年度)
助成内容：コーディネーター費用、広報費、配送ボランティア謝金、冷凍庫購入費用
助成金額：360,000円

◆事業指定プログラ第5期エラベル (2018年度)
助成内容：広報費、食料配送費、コーディネーター費用、子どもの貧困をテーマとした講演会の開催等
助成金額：851,474円

